

抗がん剤の新薬による、世界で日本だけの薬害事件

薬害イレッサ訴訟

東京地裁で国の責任認める!!

3月23日、東京地裁は、原告勝訴判決を言い渡しました。これまでのみなさんのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

しかし被告らが控訴したため、今後は高裁での審理となります。薬害イレッサは国とアストラゼネカ社が一体となって引き起こした史上最悪の薬害事件です。全面解決のためには、これまでも増して、みなさんのご理解・ご支援が必要になります。どうぞ宜しくお願い致します。

国とアストラゼネカ社は、判決で2度目の警告!

東京地裁判決では、アストラゼネカのマーケティング戦略によって「夢の新薬」という大宣伝がなされる一方で、致死的な副作用情報を正確に伝えていなかった（製造物責任法上の「指示・警告上の欠陥」にあたる）ことが断罪されました。

また国についても、アストラゼネカ社を指導する義務を果たさなかったことについて国家賠償法上の責任があるとされました。なお、大阪地裁判決（2月25日）でも、薬事行政は万全でない指摘していました。この点で、国も2度目の警告をうけたのです。

国とアストラゼネカ社が控訴～不当な争いは許されません

今後の法廷でのたたかいは次のステージ＝高裁に移ります。しかし、半年で180人、2年半で557人という死亡被害(2010年9月現在819名)を出した薬害イレッサの反省にたって、原因究明と再発防止措置を真剣に検討するためには、被害者との話し合いが不可欠です。わたしたちは、政府とアストラゼネカに対して、すみやかに全面解決にむけた話し合いのテーブルに着くことを求めています。

【連絡先】薬害イレッサ東京支援連絡会

東京都新宿区新宿2-1-3 三ツツィー新宿御苑 10階

TEL03-3352-3663 担当 土田

<http://yakugairessa.yu-yake.com/index.html>

(2011.5.1 作成)



話し合いによる全面解決を！

2011年(平成23年)3月24日(木曜日)

イレッサ 国にも責任



「副作用情報が不十分」 東京地裁が賠償命じる

【東京24日】東京地裁は、薬害イレッサ訴訟で、原告側が「副作用情報が不十分」と主張したところ、被告側が「副作用情報は十分」と主張したところ、原告側の主張を認め、被告側に賠償を命じた。判決は、原告側が「副作用情報は不十分」と主張したところ、被告側が「副作用情報は十分」と主張したところ、原告側の主張を認め、被告側に賠償を命じた。

イレッサ訴訟 国の賠償責任認める

東京地裁 2人に1700万円支払い命令

【東京24日】東京地裁は、薬害イレッサ訴訟で、原告側が「副作用情報が不十分」と主張したところ、被告側が「副作用情報は十分」と主張したところ、原告側の主張を認め、被告側に賠償を命じた。判決は、原告側が「副作用情報は不十分」と主張したところ、被告側が「副作用情報は十分」と主張したところ、原告側の主張を認め、被告側に賠償を命じた。

入試投稿 「保護観察相当」

予備校生きよう家裁送致

【東京24日】東京地裁は、入試投稿問題で、予備校生が「保護観察相当」と認められた。予備校生が「保護観察相当」と認められた。

都知事選きよう告示

【東京24日】東京都知事選挙の告示が発表された。告示が発表された。

薬事行政なお課題

【東京24日】薬害イレッサ訴訟の判決を受けて、薬事行政の課題が浮き彫りになった。薬事行政の課題が浮き彫りになった。

「イレッサ」初の国敗訴

東京地裁 副作用の可能性認識 賠償命令

【東京24日】東京地裁は、薬害イレッサ訴訟で、原告側が「副作用の可能性を認識していた」と主張したところ、被告側が「副作用の可能性を認識していなかった」と主張したところ、原告側の主張を認め、被告側に賠償を命じた。判決は、原告側が「副作用の可能性を認識していた」と主張したところ、被告側が「副作用の可能性を認識していなかった」と主張したところ、原告側の主張を認め、被告側に賠償を命じた。

原告側「意義ある判決」

【東京24日】薬害イレッサ訴訟の判決を受けて、原告側は「意義ある判決」とコメントした。原告側は「意義ある判決」とコメントした。

厚労省による下書き問題

政府は徹底した調査を！

2月23日、薬害イレッサ問題の解決をめざす民主党の会(議連)の会合のなかで、厚労省の役人が、日本医学会をはじめとする各学会に対して、裁判所の和解勧告・所見への批判的声明を出すよう案文を送るなど働きかけていたことがわかりました。国の和解拒否の直前、諸団体が和解勧告を批判する声明を同日に発表し、新聞各紙が報道しています。これをうけて政府も和解拒否するというシナリオがあったのです。厚労省が批判をうけないために、和解反対の世論形成まで画策していたとは、驚くべきことです。政府の調査チームが調べたところ、イレッサ承認時の審査担当だった人物(平山佳伸・現、医薬担当審議官)らが関与していたことがわかりました。こういった範囲で、どのようなはたらきかけをしていたのか、国会での審議も含めた徹底した調査が必要です。

取り調べ 批判回避狙う

【東京24日】薬害イレッサ訴訟の判決を受けて、厚労省は「取り調べ」を批判回避の狙いで進めている。厚労省は「取り調べ」を批判回避の狙いで進めている。

(毎日新聞2月24日付朝刊より→)